

素朴なギモン

なぜ濱谷歯科は

第1期矯正に力を入れているの？



歯科を訪れる多くの保護者の方は、お子さんの「きれいな歯並び」を求めて来院されます。しかし、当院では10歳までの矯正治療(第1期矯正治療)は、審美を目的とするのではなく「人間本来の成長を見守り健康に育てること」だと考えています。

今回は当院が「第1期矯正治療で重視しているポイント」についてお話します。

Point 1 「様子を見ましょう」はNG



「そのうちはえてくるかな」と漫然と様子を見ているのでは改善のチャンスを逃すこともあります。現在の画像検査は精巧で、顎の中の歯の大きさや形態、位置などを正確に診断できます。

経過観察する場合も「いつまで様子を見られるのか?」「現時点では何をすべきなのか?」など、見通しと根拠を持って様子を見ていきましょう。

Point 2 大切なのは「お子さんの将来の健康」です

歯並びを左右する要素は実は生後早い段階から存在します。産まれてから「おっぱいの飲み方」「指しゃぶり」「おしゃぶり」「うつぶせ寝」など早い段階で好ましくない同じ動作が繰り返されると、あごの形や唇や舌の形に影響を及ぼしていきます。さらに年齢が上がって、いつも片側だけ下にして寝ていたり、片方だけの噛み癖があったり、鼻詰まりやアデノイド、扁桃腺肥大などで口呼吸が続きますと少しいびつな発達をすることになります。5～6歳では「錠剤の薬」や「薄切りのお肉」などが上手にゴクンできるかなどを確認するなど「のみ込み方」を観察することはとても大切です。このような「癖」を見つけて、早めに解消していくことも第1期治療の重要な役目なのです。



10歳を境に「癖」を矯正することはなかなか難しくなります。もちろん健全な成長軌道に乗ったお子さんの口には正しい位置に歯が並んで参ります。焦りは禁物。正しい飲み込み動作や姿勢、癖のない筋肉の使い方は「骨格的な成長促進」と「きれいな歯並び」の基礎であることをご理解いただき、ともに頑張っていきたいと思えます。

question CTやレントゲンの放射線が心配

我々医療者も同じ気持ちです。当院でCTの導入を決定した大きな理由の一つは数年前の装置に比べ照射線量が飛躍的に減少したことです。中でも当院のCTは現時点で照射線量世界最小。当院の旧機種と比較しても同量以下で飛躍的に的確な診断ができるようになりました。歯科医療にレントゲン診断が導入されて以降、患者様に対しての放射線による後遺症・障害は報告されておりません。どうぞ安心して受けてください。